

>> Dialogue between Sociology and "Visuals" <<

第1回 “「東京」を観る、「東京」を読む。”展

- 写真家の眼と社会学の眼 -

A. 柿沼隆(写真家) “東京・路地裏・再発見”展

99年「東京世紀末展」、05年「調布1000人の顔写真展」他 http://www.toshima.ne.jp/~k_photo/

B. 「東京人」観察学会(後藤ゼミ) “写真で語る:「東京」の社会学 '05”展 (12回目)

http://www.chs.nihon-u.ac.jp/soc_dpt/ngotoh/tokyo/

主催：日本大学文理学部 + 「東京人」観察学会

後援：世田谷区教育委員会

会期：2005年11月22日(火)～12月1日(木)の10日間

平日・土日・祭日共 10:00～17:00 但し、最終日のみ 15:00まで

会場：日本大学文理学部百周年記念館 1Fのエントランスホール

京王線下高井戸駅又は桜上水駅(共に新宿駅より約10分)下車徒歩8分

講演会：<<対論>> 柿沼隆×後藤範章 “「東京」と「東京人」を写真によって読み解く”

11月26日(土) 13:30～15:30 図書館3Fのオーバルホール(162席)にて

<<全て無料・講演会は先着順>>

<既発表作品より> 東京型通学スタイル - 私も"越境"通学生!?! -



ここは新宿、大ターミナルの夕方5時。制服に身をつつみ、背負ったランドセルからは通学定期券をぶら下げている少女。自分の住む市区町村外に"境界を越えて"通学する児童・生徒を「"越境"通学生」と定義するなら、彼女もその1人に違いない。2000年の国勢調査によれば、東京都内にある小・中学校への通学者807,915人の内、「越境」通学生は92,918人を数え、全体の11.5%にあたる。次に多い神奈川県は5.9%、全国平均に至っては1.8%。東京の数字の高さが浮き彫りになる。そして、「越境」通学生の大半は、全国852校のうち229校が集中する(2000年の『学校基本調査報告』による)都内私立小・中学

校の児童・生徒なのだ。高まる私立志向、高度に発達した交通機関、それらに裏打ちされた越境への心理的障壁の低さ。こうした要素が、東京における"越境"通学生を実に10人に1人強の割合にまで高めさせている。

一見寂しげに見える彼女、しかしデータの向こう側から友達の姿が見えてくる。

写真：2002年7月5日(金)午後5時頃 京王線・新宿駅構内にて撮影

(c)「東京人」観察学会(日本大学文理学部社会学科・後藤ゼミ)

< ご 換 拶 >

日本大学文理学部では、この度、第 1 回 “「東京」を観る、「東京」を読む。” 展を開催する運びとなりました。写真展であるようで写真展ではない、社会学と写真が融合したこれまでにない全く新しいタイプの展覧会です。社会学 / 写真の専門家や大学生はもとより、一般の方々にも十分に楽しんでいただけるものと確信しております。

当学部社会学科・後藤ゼミの学生が、多数の皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

< 特 色 >

a) 後藤ゼミでは、後藤が開発し実践している「集合的写真観察法」(新しいビジュアル・リサーチ・メソッド)を用いて、一枚の写真から“東京”や“東京人”の諸相を社会的に分析する“写真で語る:「東京」の社会学”プロジェクトを、1994年度より行っています。

これまでの11年間は成果を学部祭で展示発表してまいりましたが、12回目にあたる今年度からは、ビジュアル関連の様々な領域で「東京」を主たるフィールドとして活躍されておられる方々(写真家、映画監督、画家、建築家、フォトジャーナリスト、アニメーター、映像作家、工芸作家、スタイリスト、デザイナー、絵本作家、都市計画家等々)を毎年お招きして、実験的なコラボレーションを試みることになりました。展覧会のテーマに付されている >> Dialogue between Sociology and “Visuals” << が、このことを表しています。

b) 異質な視点と方法による作品群から構成される別々の展示会を同一空間内でジョイントさせることで、モチーフとする「東京」が多様かつ立体的に描き出されると同時に、一種の<化学反応>が引き起こされて一味違った視点や可能性、読み方や味わい方が広がりかつ深まっていくことが期待できます。

c) 欧米では既に確立していながら、日本ではようやく産声を上げ始めた感の強い“Visual Sociology”の定着と発展を先導すると共に、ビジュアル・リサーチ・メソッドの普及にも努めます。この展覧会は、大学の研究者に留まらずビジュアル関連の専門家を幅広く取り込んで、新しい「知と視覚と感性の地平」を切り開くムーブメントの発進源となるはずです。

d) 集合的写真観察法が、プロジェクトに参画する学生達の<センス・オブ・ワンダー(不思議に目を見張る感性)>を磨き、<ソシオロジカル・イマジネーション(社会的想像力)>をどれほど高めているのかが、作品を通して読み取ることができるでしょう。12年間の積み重ねの中で磨き上げてきた「社会学の教育・実習プログラム」の効果を体感できるのも、隠された特色の一つです。人間的にも洗練・成熟度の高い学生と会場で直に接触し、交流していただければ幸いです。

企画・開催責任者：日本大学文理学部社会学科教授 後藤範章

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部

Tel : (03)5317-9713 Fax : (03)5317-9424 (共に社会学科事務室)

E-mail : ngotoh@chs.nihon-u.ac.jp 後藤の自宅 Tel/Fax : (0426)35-8078

後藤ゼミのホームページ : http://www.chs.nihon-u.ac.jp/soc_dpt/ngotoh/tokyo/